

「代替医療の科学的評価に関するシンポジウム」が開催！

日本統合医療学会主催による「代替医療の科学的評価に関する国際講演会およびシンポジウム」が平成16年10月8日、東京大学の鉄門記念講堂で開催されました。



爵大山教授の特別なはからいによりAJからも、(社)米国アガリクス免疫療法研究所正規研究員や販社、代理店、特約店など12名が出席しました。大型台風22号直撃の中会場へ向かうAJメンバーの皆さん(上)



出席された爵大山教授ご夫妻



主催者東京大学名誉教授 渥美和彦医学博士(上右)と挨拶に立った民主党鳩山由紀夫衆議院議員(上左)



その他、統合医療を推進する超党派議員が挨拶に立った公明党 渡辺孝男参議院議員(左)と民主党鈴木寛参議院議員

この日のプログラムは午前9時から開始され、冒頭挨拶の中で主催者である JACT 日本代替・相補・伝統医療連合会 議事長 渥美和彦医学博士(東京大学大学院医学部名誉教授)は「1990年、米国のアイゼンバーグ博士の調査により、米国に起った CAM(代替医療)への関心は、米国の政府を動かし NIH に CAM の調査室、次いで国立 CAM センターを設立することになった。2004年にはハーバード大学、コロンビア大学、スタンフォード大学、ミシガン大学、ジョンホプキンス大学、アリゾナ大学など米国の大学に対し200億円もの CAM 研究費が支給された。現在ホワイトハウスの中に、代替医療大統領委員会が設立され、国の政策の大きな柱のひとつになっている。」と、日本で初めて開催された統合医療国際会議での意義と経過を報告した。さらに「統合医療が WHO(世界保健機関)諸国に広がりつつある世界的流れの中で、わが国は世界から完全に取り残され、まさに鎖国状態にある。その理由として①健康保険制度改革の遅れ。②CAM をわが国の医療教育に導入していない。③政府機関の情報不足。④サプリメントに対する国民の関心とニーズが高まっているのに無規制で、正確な情報の伝達が遅れており、企業本位の宣伝情報が混乱を起こしている。」と、わが国の CAM 推進を遅らせている原因を指摘した。



日本の医療は統合医療になる！

統合医療とは・・・？ 代替医療って・・・何？

現在、世界的規模で高齢化が加速しています。中でも、わが国は世界でも例を見ない超高齢化社会に突入しています。高齢化社会が抱える最も大きな問題が医療費です。2015年にはガン患者数が倍に増え、それに伴う医療費は現在の国家予算に迫る70兆円にも達するとの予想が発表されています。現代人の病気(特に慢性疾患)に西洋医学だけでは対応できなくなっていることが原因です。わが国は本気で「病人を治し、病人を出さない」という新しい医療理念を持たなければならない状況に追い込まれています。そこで、西洋医学に代替医療を加えた統合医療に大きな期待がかかっています。すでに医療先進国アメリカでは最新の医療概念が西洋医学ではなく統合医療になっています。人間が本来持っている「自然治癒力」の向上を理念とする代替医療の主役は「免疫賦活作用」と「抗酸化作用」に優れた有効性を持つサプリメントです。現在、臨床機関や学術機関がサプリメントの安全性と有効性の調査を進めています。



米国の国家プロジェクトとして推進される CAM 研究の指揮をとってきたジョン・チャー博士(左)が招かれ、今回のメインとなる、米国における最新の CAM 事情や CAM 推進が国家プロジェクトになるまでの経緯などが詳細に報告された。その後、渥美博士(下)との質疑応答が行われた。



第1回国際統合医療専門家会議が今年1月開催され、NHK「クローズアップ現代」がこれを報じた。渥美博士(上)と爵大山教授(右、中央)。

現在、米国では CAM 推進を国家プロジェクトとして取り組んでいる。今回、その陣頭指揮にあたっているジョン・チャー博士を迎え、「米国での CAM が果たしてきた成果」が3時間にわたって講演された。チャー博士の講演終了後、超党派議員らで構成する「統合医療研究組織」を率いる民主党鳩山由紀夫衆議院議員は「米国と日本との大きな差を思い知った。これからも、わが国の CAM 推進に全力を挙げて取り組んでいきたい。」と意欲を述べた。各領域の医師らによる CAM への取り組みが講演された後、文部科学省の「代替医療の評価基準の研究」チームによるシンポジウムが行われ、CAM におけるサプリメントへの期待と差別化が論議された。主催者渥美和彦医学博士は閉会の挨拶の中で、わが国の CAM 発展に産業として貢献した爵大山教授に礼を述べ、午後6時に全プログラムが終了した。



シンポジウム終了後、渥美和彦医学博士と爵大山教授夫妻をはさんで AJ スタッフが記念撮影